ハンドマイク街頭演説原稿例　、暮らしをささえる社会保障を

２０１９年５月３１日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間よろしくお願いします。

　いま、安倍自公政権の消費税増税に、「消費税増税するなどとんでもない」「売上げが減っている。増税など考えられない」など、怒りの声が広がっています。消費税増税など暴挙ではないでしょうか。

みなさん、くらしを守るため、「１０月からの増税は中止せよ」の一点で大同団結し、参院選で「増税ストップ」の審判をくだし、消費税増税を必ず止めようではありませんか。

　一部大企業と富裕層ばかりが肥え太り、日本経済をダメにしたのがアベノミクスではないでしょうか。いまやるべきことは、家計を応援し、希望の持てる政治に切り変えることです。日本共産党は、消費税の増税は中止し、「暮らしに明日の希望を持てる―３つの提案」をよびかけています。それは、

　第一に、８時間働けばふつうに暮らせる社会をつくること。

第二に、年金、福祉・医療を充実し、暮らしをささえる社会保障を築くこと。

第三は、誰もがお金の心配なく学び、子育てができる社会をつくることです。

みなさん、この道でこそ、若者も、高齢者も、安心して、希望が持てるくらしが実現できるのではないでしょうか。

今日は、暮らしをささえる社会保障を築くことについてお話しさせていただきます。

みなさん、いま、国民のくらしを支えるはずの社会保障は、高い保険料や給付・サービスの低下で、くらしを押しつぶすようになっているのではないでしょうか。年金も福祉・医療も、社会保障ほんらいのあり方に改善することが求められています。

まず、公費１兆円を投入し、高すぎる国民健康保険税を抜本的に引き下げることです。

安倍政権の「国保の都道府県化」によって、今でもサラリーマンなどの加入する協会けんぽの保険料などと比べ、高すぎる国保税の負担がさらに引き上げられようとしています。全国知事会、全国市長会、全国町村会などは、加入者の所得が低い国保が他の医療保険より保険料が高く、負担は限界に達しているとして、公費を増やして、国保税を引き下げることを国に要望し続けています。公費負担を１兆円増やせば、協会けんぽと同じくらいまで、国保税を引き下げることができます。

また、子ども医療費助成制度は、国の制度として就学前まで無料にすることではないでしょうか。政府は、子ども医療費の窓口無料化を行なう市町村に、ペナルティを科すし、市や町の努力を妨害しています。政府のやることはひどすぎるんではないでしょうか。

そして、「減らない年金」の実現と、低年金者への支給額の一律６万円引き上げ、「底上げ」をはかります。また、低所得者の介護保険料の軽減と生活保護の削減を中止、障害をもつ方の福祉・医療の無料化をすすめます。

いま、お話したのは３つの提案のひとつですが、３つの提案すべての実現に、必要な財源は七・五兆円です。財源は消費税に頼らず、十分に可能です。日本共産党は、こうして暮らしを支える社会保障の実現をめざし全力でがんばります。ごいっしょに力を合わせましょう。

みなさん、党県民運動委員長の伊藤岳参院予定候補は、介護度４の父を自宅で、家族で介護した経験も持ち、「このままでは家族が倒れる」との思いも経験し、県内の実態を調査し、国に改善を求めるなど、福祉や介護、障害の改善を求め運動してきました。そして、いつも現場の声を大切に、頑張ってきました。伊藤岳予定候補へのご支援を、よろしくお願いします。

みなさん、日本共産党は、参院選挙では日本共産党を大きく伸ばしてください。埼玉では伊藤岳参院予定候補へのご支援をお願いします。来たる８日土曜日、午後２時から、大宮駅西口で、志位和夫委員長を弁士に街頭演説を開催します。ぜひ足をお運びくださいますようお願いいたしまして、この場所で訴えを終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。（了）